

# インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
リッキョウ	ケイザイガクブ	セキトモカズゼミナール
立教大学	経済学部	關智一ゼミナール

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
アスク	カナウラサキ	6	無	
As9	金浦早希			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

有

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

献血 Diary～仲間と記すキセキの証～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

近年、進行している少子高齢化の影響により、近い将来十分な血液量の確保が出来なくなる可能性があると考えられている。このまま献血者不足の状態が進行すると、救うことが出来る命も救えなくなってしまう。そこで今回私達は、若者の関心を献血に向け、将来の安定的な血液量の確保を目指すべく独自の試みについて提案する。

## 2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

献血事業は、人々の命を救うものとして必要不可欠である。しかし、現在の全体の献血者数は減少している。特に 16～29 歳の若年層の献血者数の減少は著しい。少子高齢化が進む日本において若年層の献血不足は大きな問題であるといえる。また、必要献血者数シミュレーションによると 2027 年には約 70.5 万人の献血が不足すると考えられている。若年層の中でも所属する全員が献血可能年齢に達する大学生は献血を始める入り口として最適である。若年層を対象にした意識調査から献血に行かない理由として着手可能かつ効果的である献血場所の入りづらさに着目する。反対に献血に参加している若年層がいくつかとしては友達に誘われたからという点に着目する。つまり、大学生は友人と献血に行くこと自体がきっかけ作りとして有効である。また、独自に行ったアンケートによると現在の大学生リピーターの約 8 割が「だれかの役に立ちたいから」という理由で継続的に献

血に参加している。つまり、自分の貢献度を実感することができればその後のフォローアップ及び、リピーターへとつながると考える。ここから、二つの要点を満たすことで安定的な献血者数の確保につながると考える。

### 3. 研究テーマの課題

上記の通り、大学生を献血に参加させる為、若年層の献血について分析を行った。その結果、献血を行っている場所に入りづらいという課題をクリアし、且つ、若年層に対しに有効である、友人と献血に参加することをテーマとしたプランが必要だと考えられる。更に、将来的な献血者不足を解決するためには、①献血実施場所の入りづらさを解消する仕組み②リピーターを生み出す仕組みの2点を抑えたプランが効果的であると考えられる。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記の課題を解決するための施策として提案するのが、「献血 Diary」である。

#### 【概要】

献血 Diary は、献血をする度に日付・献血回数・採血量・一緒に献血した友人の名前・献血によって救われる人数、が記録される通帳である。大学生を対象に、献血をする場所に入りづらいという問題を、友人と一緒に来てもらうことで解決する。

#### 【要点】

##### ①献血実施場所の入りづらさを解消し、連鎖的に増加を促す仕組み

現在の献血では、決められた回数に到達する度に記念品をもらうことができる。しかし、献血は頻繁にすることはできず、自分の回数だけの記録では、記念品がもらえるまでに時間がかかる。そこで、献血 Diary を通じて友人の分も加算され、記録が積み重なりやすくなるようにする。そうすることで、複数の友人を献血に誘うインセンティブを強め、献血の輪を広げる。

##### ②リピーターを生み出す仕組み

採血量から計算した救うことのできる人数を表示すること、輸血を受けた人や赤十字社からの“ありがとうの声”をのせた手紙や表彰状を与えることで、自身の献血への取り組みを“見える化”する。そうすることで、次回の献血へのモチベーションへとつなげる。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

As9 は献血ルームと献血者を結び付ける仲介者の役割として機能する。

具体的には、献血通帳の企画・作成や献血 Diary の広報を行う各地の献血学生団体のサポートや感謝の声のメッセージの病院への委託などを主な業務とする。献血ルームの協力に関しては赤十字の方より「検討可能である」というお声を頂いたため実際に献血ルームへの導入の協力を得る可能であると言える。また、大学生を対象に「献血 Diary があれば友人と献血に参加したいと思いませんか」というアンケートを行ったところ78%が参加したいと答えた。広報に関しては、献血推進活動を行っている全国の学生団体に協力したいというお声を頂いたため、このプランは実現可能性が十分にあると言える。

### 6. 結果や今後の取り組み

今後の取り組みとしては、半年間赤十字と共に試行期間を設け、全国展開につなげるための取り組みの試算を出していきます。また、試行期間一回目の開催については、池袋献血ルームぶらっとにおいて実施していく予定です。

### 7. 参考文献

・日本赤十字社本部献血事業本部「献血事業年度表(平成30年度)」

[http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20190702\\_H30nendoho.pdf](http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20190702_H30nendoho.pdf)

・日本医科大学医学会雑誌「献血の現状と将来への展望」

<https://www.nms.ac.jp/sh/jmanms/pdf/011040197.pdf>

・岡山県「献血に関する県民意識調査報告書(平成22年度岡山県)」

[http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/93719\\_306746\\_misc.pdf](http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/93719_306746_misc.pdf)

・WEST 論文研究発表会

社会経済的インセンティブは献血意欲を増加させるか 献血行動に関する実証分析」

[https://www.west-univ.com/library/2013/13\\_best2\\_2.pdf](https://www.west-univ.com/library/2013/13_best2_2.pdf)

・厚生労働省「若年層献血意識に関する調査結果報告書：未経験者編」

<https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/7n-02.html>

・日本赤十字社血液事業本部「献血に係るアンケート調査結果について」

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11121000-Iyakushokuhinkyoku-Soumuka/0000146106.pdf>

・川崎医療福祉学会誌

「大学生の友人関係 5つの大学におけるグループの特徴に関する調査から」

<http://www.kawasaki-m.ac.jp/soc/mw/journal/jp/2003-j13-1/24-yoshida.pdf>

・日本赤十字社「『友達と献血』トモケンキャンペーンのお知らせ」

<https://www.bs.jrc.or.jp/tkhr/shizuoka/2017/03/post-24.html>

#### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

---

**↑ ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**